

大豆の生産状況及び取組方針について

資料 2

	1. 各県における大豆の需要・課題	2. 大豆の生産状況・目標					3. 1及び2を踏まえた課題解決に向けた取組や今後の推進方針 新品種導入に関して検討していることがございましてご記入ください	4. 令和5・6年度大豆において講じた技術対策（予定含む）		5. 県・全農における取組支援	6. 他県、実需者、研究機関等に対し意見交換で聞きたい・話し合いたい・要望したいこと	
		県全体／主な品種	令和5年度	令和6年度 収重量と単収は良品みにについてご記入ください	令和〇年度 県で目標設定している年度についてご記入ください	①生産 ②流通 における課題		主な生育ステージ	講じた技術			
新潟県	①大豆の用途 豆腐、豆腐加工品（油揚げ等）、納豆 等 ②大豆の主な取引先 （県内）こなかわ様 等 （県外）アサヒコ様（埼玉県）、 タカノフーズ様（茨城県）、 相模屋食料様（群馬県） 等 ※卸売業者を経由して販売 ③実需者から求められる品質・量のニーズ 品質：被害粒の減少 量：安定供給 ④需要にかかる課題 安定供給による産地の信頼度向上	県全体 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) 里のほほえみ 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) エンレイ 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) ※品種ごとの作付面積・単収は推計。収重量は検査数量。	4,280 ha 7,100 t 166 kg/10a 2,467 ha 4,349 t 167 kg/10a 1,657 ha 2,139 t 167 kg/10a ※品種ごとの作付面積・単収は推計。収重量は検査数量。		令和6年度 6,000ha 重点対象 270kg/10a 県全体 180kg/10a	・団地化、ブロックローテーションの推進 ・排水対策、適期収穫等の徹底 ・青立ち、しわ粒発生抑制	1 重点技術対策の徹底による収量・品質の確保 【新潟県のR6年度大豆の重点技術対策】 ・高品質安定生産のための栽培環境の整備 ・湿害と雑草害の回避による生育量の確保 ・夏期の土壌乾燥防止による水分ストレスの軽減 ・土壌改善と地力低下防止、後期米菰の確保による登熟の向上 ・病害虫防除の徹底 ・適期収穫と汚損粒発生防止による品質向上 2 生産拡大や生産性向上に必要な機械・施設の導入支援	播種前 播種 分枝・伸長期 開花期 随時	明渠・補助暗渠等による排水対策 有機資材等の施用による地力増進 砕土率の確保、畝立て播種 中耕・培土の適期実施 水分ストレス軽減のための乾燥時の暗渠閉栓等 適期・適正な病害虫・雑草防除	新潟県農林水産業総合振興事業（大豆・麦・そば生産振興メニュー） 予算：91,158 千円の内数 内容：大豆・そば・麦の生産のために必要な施設・リース用機械の整備 ①施設整備（補助） ・一般地域：3,000～50,000 千円（4/5/10 以内） ・中山間地域：1,000～50,000 千円（5/10 以内） ②機械整備（リース） ・一般地域：1,000～30,000 千円（3/10 以内） ・中山間地域：1,000～30,000 千円（1/3 以内）	1 三条市鬼木地区 ・団地化・生産計画の検討を実施 ・大豆コンバインを導入 ・団地化面積 21.2%→22.7% ・作付面積 9.4ha→15.8ha 2 長岡市下沼新田地区 ・団地化に向けたブロックローテーションの検討を実施 ・効率摘種技術を導入 ・大豆コンバインを導入 ・団地化面積 0.0%→234% ・作付面積 1.2ha→6.0ha	
富山県	①大豆の主な用途 豆腐、煮豆、豆乳 等 ②大豆の主な取引先 ・株式会社マルツネ ・マルサンアイ株式会社 等 ※生産量の大半は卸へ出荷。記載した取引先は、卸からの販売先や直接集荷団体から出荷した業者を記載。 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・豆腐等加工用途に応じた加工適性（たんぱく質やリン、イソフラボンの含有量など） ・安定した量の供給 ・異物混入の防止 ④需要にかかる課題 ・実需の求める量・品質の安定供給	主な品種 ・えんれいのそら ・シュウレイ ・オオソル	作付面積：4,660ha 収重量：5,550 t 単収：119kg/10a	作付面積：4,505ha	作付面積：4,900ha 単収：200kg/10a ※目標年度は定めていない。	①生産 ・実需の要望量を提供するための生産拡大 ・適期作業のための作業効率の向上 ・青立ちの発生防止 ・地力の減耗	・県米作改良対策本部からの管理情報や指導文書の発出、各農林振興センターにて地域に応じた栽培管理指導 ・生産推進に向けた生産体制のための国事業活用の推進・支援	播種前 播種期 播種後～開花期前 開花期以降 収穫期	・土壌改良資材や有機物の施用 ・排水対策の徹底 ・適正な播種（時期に応じた播種量、播種深度など）の徹底 ・適正な基肥量の施用 ・雑草の種類や発生状況に応じた雑草防除対策 ・適期培土の確実な実施 ・莢数確保のための畦間かん水の実施 ・適正な病害虫防除の実施 ・汚損粒発生防止のための収穫前の雑草などの除去 ・適期収穫 ・コンバインの適正な作業速度の遵守 ・異物混入防止のための丁寧な選別・調整の徹底	・高生産性大豆生産運動事業 予算額 461千円 技術実証のための実証ほの設置など	●入善町農業再生協議会 ・大豆生産面積拡大に向け、作業効率の向上が必要 ・このため、ドローンやコンバインなどの高性能機械を導入し、効率的な作業が可能となった。 ・結果、作付面積は計画策定時直近（R3年産）の689haから、R5年産は752haと63ha拡大した。 ●富山市農業再生協議会 ・作業効率向上による適期収穫に向け、コンバインを導入 ・結果、作付面積は、計画策定時直近（R2年産）の672haから、R5年産では790haと118ha拡大した。	・（一各県）果樹や水稲に続き、大豆の吸汁性カメムシ類の多発が懸念され、収量や品質の低下、青立ちの発生が危惧されるが、各県の発生状況はどうか？また、発生予察注意報等の対応予定があれば教えて欲しい。 ・（一各県）今後、農研機構で育成された「そらひびき」の導入予定はあるか？また、石川県で栽培した感触（作りやすさや実需側のコメント、加工適性等の評価等）を教えてください。 ・（一国、各県）温暖化による青立ち発生リスクの増加、成熟期の遅延等が懸念される中、温暖化に対応した品種や栽培技術があれば教えて欲しい。
石川県	①大豆の用途 豆腐、納豆 ②大豆の主な取引 ゼントウ ③実需者から求められる品質・量のニーズ 収量の安定化、品質向上 ④需要にかかる課題 価格の安定化	県全体 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) 里のほほえみ 作付面積 (ha) 検査数量 (t) 単収 (kg/10a) エンレイ 作付面積 (ha) 検査数量 (t) 単収 (kg/10a)	1,720 ha 1,930 t 112 kg/10a 1,479 ha 1,655 t 111.9 kg/10a 136 ha 63 t 46.3 kg/10a	現在集計中 ※R6計画値 里のほほえみ 作付面積：1,332 ha エンレイ 作付面積：106 ha	令和9年度 1,900 ha 3,800 t 200 kg/10a	・病害虫や雑草による被害（カメムシ、葉焼病等） ・青立ちやしわ粒の発生	・排水対策の徹底 ・土壌分析に基づいた土づくり ・開花期の畝間かん水 ・病害虫防除の徹底	播種前 開花期 成熟期	・土づくり（堆肥施用、前作緑肥作付） ・排水対策の徹底 ・畝立て同時播種機の利用 ・殺虫剤の播種時処理 ・中耕培土（開花期まで） ・適期収穫	無	津幡町湖東 ・大豆生産のため単収向上が課題 ・適期防除のため、ドローンなどを新たに導入 ・結果、収量が56kg/10a (R4) から68kg/10a (R5) に増加 能美市上清水町 ・大豆生産のため単収向上が課題 ・苗立ち数確保のため、アッパーロータリーなどを新たに導入 ・結果、作付け面積が11ha (R3) から13ha (R4) に拡大	
福井県	①大豆の用途（豆腐、納豆、・・・など） ・「里のほほえみ」はタンパク含有量が高く、豆腐・豆乳業界での使用が高い ②大豆の主な取引先 ・全国農協食品（株）等 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・安定した生産体制の構築の上で、「品質の均一化」及び「安定供給」 ④需要にかかる課題 ・国産比率を今後高める為に、大豆ミート等新たな用途での需要が見込まれる事から、高品質な大豆の栽培を推進し安定供給及び消費拡大に努める事	県全体（農水省統計値） 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) 里のほほえみ（県調べ※） 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) エンレイ（県調べ※） 作付面積 (ha) 収重量 (t) 単収 (kg/10a) ※検査実績からの計算値	1,940ha 2,270t 117kg/10a 1,750ha 1,961t 112kg/10a 150ha 144t 58kg/10a	集計中	令和6年度 1,900ha 4,180t 220kg/10a （令和6年度 大豆振興方針より）	・単収向上	・収量向上のための基本技術の徹底の総点検（栽培日誌の確認等）	播種前 播種時 本葉展開期 開花期～ 子実肥大期 全般（雑草・病害虫対策）	排水効果の高い排水対策の実施 土づくり資材の施用 畝立て同時播種技術の導入 中耕培土の適期実施 除草剤の適期散布による除草の徹底 夏季少雨期における畝間かん水の実施 稀化アサガオ対応マニュアルに則った畦畔管理の対応を徹底 葉焼病の防除・黒根腐病への対応	・県農業試験場にて、奨励品種決定試験を実施中（特に、収量、熟期を重視）	・高効率機械の導入による規模拡大に向け、コンバインを導入。 ・結果、効率的で生産性の高い体制が整備され、大豆の生産面積拡大につながった。 坂井市油屋地区（農事組合法人M） R4：14ha→R5：22.4ha 南越前町清水地区（Bファーム） R4：4.5ha→R5：13.7ha	

※各事項に関連する詳細や事例など関連する資料があれば、別途、補足資料として欄下に提供ください（様式・形式・量は問いません。）。